

平成29年度 東北大学2次試験前期日程(数学問題)150分  
理系(理, 医(医・保健(放射線・検査)), 歯, 薬, 工, 農)

- 1  $a, b$  を実数とする.  $y = |x^2 - 4|$  で表される曲線を  $C$  とし,  $y = ax + b$  で表される直線を  $l$  とする.
- (1)  $l$  が点  $(-2, 0)$  を通り,  $l$  と  $C$  がちょうど3つの共有点をもつような  $a, b$  の条件を求めよ.
  - (2)  $l$  と  $C$  がちょうど3つの共有点をもつような点  $(a, b)$  の軌跡を  $ab$  平面上に図示せよ.
- 2 A君とB君はそれぞれ, 0から5までの数字が1つずつ書かれた6枚のカードが入った箱を1つもっている. 2人は, 自分の箱の中から無作為に3枚のカードを取り出して得点を競うゲームをする. 取り出された3枚のカードに0が含まれていない場合の得点は3枚のカードに書かれた数の平均値とし, 0が含まれている場合は残りの2枚のカードに書かれた数の合計とする. このとき, 次の問いに答えよ.
- (1) A君, B君の少なくとも一方が0を取り出して, しかも双方とも得点が3点となる確率を求めよ.
  - (2) A君の得点がB君の得点より大きいときの, A君の得点が整数でない確率を求めよ.
- 3  $a, b, c$  を1以上7以下の互いに異なる整数とする.
- (1) 2次方程式  $ax^2 + bx + c = 0$  が有理数解をもつような組  $(a, b, c)$  の総数を求めよ.
  - (2) 2次方程式  $ax^2 + bx + c = 0$  が少なくとも一つの整数解をもつような組  $(a, b, c)$  の総数を求めよ.
- 4  $s$  を正の実数とする. 鋭角三角形  $ABC$  において, 辺  $AB$  を  $s:1$  に内分する点を  $D$  とし, 辺  $BC$  を  $s:3$  に内分する点を  $E$  とする. 線分  $CD$  と線分  $AE$  の交点を  $F$  とする. 以下の問いに答えよ.
- (1)  $\overrightarrow{AF} = \alpha \overrightarrow{AB} + \beta \overrightarrow{AC}$  とするとき,  $\alpha$  と  $\beta$  を求めよ.
  - (2)  $F$  から辺  $AC$  に下ろした垂線を  $FG$  とする.  $FG$  の長さが最大となるときの  $s$  を求めよ.

**5**  $\alpha, \beta, \gamma$  を複素数とし,

$$z\bar{z} + \alpha z + \beta\bar{z} + \gamma = 0 \quad \cdots (*)$$

を満たす複素数  $z$  を考える. 以下の問いに答えよ.

(1)  $z$  は

$$(\alpha - \bar{\beta})z - (\bar{\alpha} - \beta)\bar{z} + \gamma - \bar{\gamma} = 0$$

を満たすことを示せ.

(2)  $|\alpha| = |\beta| \neq 0$  と仮定し, また  $\gamma$  は負の実数であると仮定する. このとき, (\*) を満たす  $z$  がちょうど 2 個あるための必要条件を  $\alpha, \beta$  を用いて表せ.

**6**  $a, b, c$  を実数とし,

$$I(a, b) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{ax} \cos bx \, dx, \quad J(a, b, c) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{ax} \sin bx \sin cx \, dx$$

とおく. ただし,  $a \neq 0$  とする. このとき, 以下の問いに答えよ.

(1)  $I(a, b)$  を求めよ.

(2)  $J(a, b, c)$  を  $I(a, b+c)$  と  $I(a, b-c)$  を用いて表せ.

(3) 次の極限を求めよ.

$$\lim_{t \rightarrow \infty} 8 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^x \sin tx \sin 2tx \cos 3tx \cos 4tx \, dx$$

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad y = |x^2 - 4| = \begin{cases} x^2 - 4 & (x \leq -2, 2 \leq x) \\ -x^2 + 4 & (-2 \leq x \leq 2) \end{cases}$$

$l: y = ax + b$  は点  $(-2, 0)$  を通るから

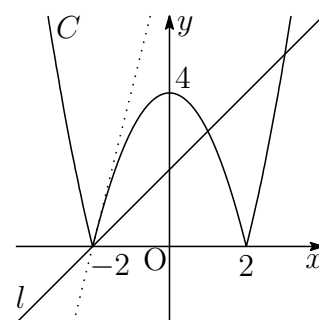
$$0 = -2a + b \quad \text{ゆえに} \quad b = 2a$$

$f(x) = -x^2 + 4$  とすると  $f'(x) = -2x$

$f'(-2) = 4$  であるから、 $l$  の傾きについて

$$0 < a < 4$$

よって、求める条件は  $b = 2a$  ( $0 < a < 4$ )



(2) 条件を満たすのは、次の (i)~(iii) の場合である.

(i) 点  $(-2, 0)$  を通り、 $l$  と  $C$  がちょうど 3 つの共有点をもつとき、

(1) で得られた結果から  $b = 2a$  ( $0 < a < 4$ )

(ii) 点  $(2, 0)$  を通り、 $l$  と  $C$  がちょうど 3 つの共有点をもつとき、

$y = |x^2 - 4|$  の  $y$  軸に関する対称性から  $b = -2a$  ( $-4 < a < 0$ )

(iii)  $l$  が  $y = f(x)$  ( $-2 < x < 2$ ) と接するとき、

$y = f(x)$  ( $-2 < x < 2$ ) 上の点の接線で傾きが  $a$  となる  $x$  座標は

$$f'(x) = -2x = a \quad \text{ゆえに} \quad x = -\frac{a}{2}$$

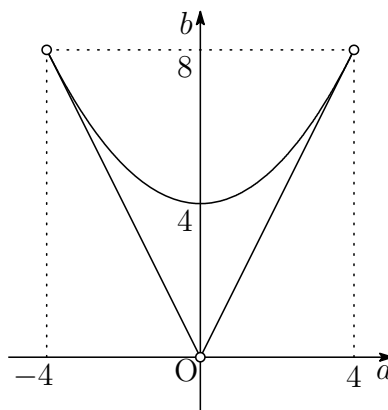
このとき  $-2 < -\frac{a}{2} < 2$  すなわち  $-4 < a < 4$

$f\left(-\frac{a}{2}\right) = -\frac{a^2}{4} + 4$  であるから、この接線の方程式は

$$y - \left(-\frac{a^2}{4} + 4\right) = a\left(x + \frac{a}{2}\right) \quad \text{すなわち} \quad y = ax + \frac{a^2}{4} + 4$$

これが直線  $l$  の方程式であるから  $b = \frac{a^2}{4} + 4$  ( $-4 < a < 4$ )

(i)~(iii) から、点  $(a, b)$  が描く軌跡は、次のようになる。



- 2 (1) 得点が3点となるのは,  $\{0, 1, 2\}, \{1, 3, 5\}, \{2, 3, 4\}$  の3通り.  
このうち, 0を取り出さないのが2通り.

よって, A, Bの少なくとも一方が0を取り出す確率は

$$\left(\frac{3}{20}\right)^2 - \left(\frac{2}{20}\right)^2 = \frac{9-4}{400} = \frac{1}{80}$$

- (2) 0から5の6枚のカードから3枚のカードを取り出すとき, 次の20通り.

得点	組合せ	場合の数
2	$\{1, 2, 3\}$	1
$\frac{7}{3}$	$\{1, 2, 4\}$	1
$\frac{8}{3}$	$\{1, 2, 5\}, \{1, 3, 4\}$	2
3	$\{0, 1, 2\}, \{1, 3, 5\}, \{2, 3, 4\}$	3
$\frac{10}{3}$	$\{1, 4, 5\}, \{2, 3, 5\}$	2
$\frac{11}{3}$	$\{2, 4, 5\}$	1
4	$\{0, 1, 3\}, \{3, 4, 5\}$	2
5	$\{0, 1, 4\}, \{0, 2, 3\}$	2
6	$\{0, 1, 5\}, \{0, 2, 4\}$	2
7	$\{0, 2, 5\}, \{0, 3, 4\}$	2
8	$\{0, 3, 5\}$	1
9	$\{0, 4, 5\}$	1

上の表から, A君, B君の得点が等しくなる確率は

$$\left(\frac{1}{20}\right)^2 \times 5 + \left(\frac{2}{20}\right)^2 \times 6 + \left(\frac{3}{20}\right)^2 = \frac{5+24+9}{400} = \frac{19}{200}$$

$$\text{A君, B君それぞれの勝つ確率は等しく } \frac{1}{2} \left(1 - \frac{19}{200}\right) = \frac{181}{400}$$

$$\text{A君が } \frac{7}{3} \text{ 点で勝つ確率は } \frac{1}{20} \times \frac{1}{20} = \frac{1}{400}$$

$$\text{A君が } \frac{8}{3} \text{ 点で勝つ確率は } \frac{2}{20} \times \frac{1+1}{20} = \frac{4}{400}$$

$$\text{A君が } \frac{10}{3} \text{ 点で勝つ確率は } \frac{2}{20} \times \frac{1+1+2+3}{20} = \frac{14}{400}$$

$$\text{A君が } \frac{11}{3} \text{ 点で勝つ確率は } \frac{1}{20} \times \frac{1+1+2+3+2}{20} = \frac{9}{400}$$

$$\text{よって, 求める条件付き確率は } \frac{\frac{1}{400} + \frac{4}{400} + \frac{14}{400} + \frac{9}{400}}{\frac{181}{400}} = \frac{28}{181}$$

- 3** (1)  $a, b, c$  が 1 以上 7 以下の互いに異なる整数に対し, 2 次方程式

$$ax^2 + bx + c = 0 \quad \cdots (*)$$

の判別式を  $D = b^2 - 4ac$  とすると, 2 次方程式 (\*) が有理数解をもつとき,  $D$  は平方数であることに注意して, 次の場合分けを行う.

- (i)  $b = 3$  のとき,  $D = 9 - 4ac$  より  $ac = 2$  ゆえに次の 2 組

$$(a, c) = (1, 2), (2, 1)$$

- (ii)  $b = 4$  のとき,  $D = 16 - 4ac$  より  $ac = 3$  ゆえに次の 2 組

$$(a, c) = (1, 3), (3, 1)$$

- (iii)  $b = 5$  のとき,  $D = 25 - 4ac$  より  $ac = 4, 6$  ゆえに次の 6 組

$$(a, c) = (1, 4), (4, 1), (1, 6), (2, 3), (3, 2), (6, 1)$$

- (iv)  $b = 6$  のとき,  $D = 36 - 4ac$  より  $ac = 5, 8$ , ゆえに次の 4 組

$$(a, c) = (1, 5), (5, 1), (2, 4), (4, 2)$$

- (v)  $b = 7$  のとき,  $D = 49 - 4ac$  より  $ac = 6, 10, 12$  ゆえに次の 10 組

$$(a, c) = (1, 6), (2, 3), (3, 2), (6, 1), (2, 5), (5, 2),$$

$$(2, 6), (3, 4), (4, 3), (6, 2)$$

- (i)~(v) より, 求める総数は  $2 + 2 + 6 + 4 + 10 = \mathbf{24}$  (組)

- (2) (1) で示した場合分けにより,  $(b, \sqrt{D}, ac)$  の組合せは次とおりである.

$b$	3	4	5	5	6	6	7	7	7
$\sqrt{D}$	1	2	3	1	4	2	5	3	1
$ac$	2	3	4	6	5	8	6	10	12
	○	○	○		○	○	○	○	

2 次方程式 (\*) の解の 1 つ  $x = -\frac{b + \sqrt{D}}{2a}$  に注目すると,  $b + \sqrt{D}$  が  $2a$  で割り切れるもの (上に示した○) は, 整数解をもつから, 残りの場合について整数解を持たない組合せを求める.

- $b = 5, \sqrt{D} = 1, ac = 6$  のとき,  $x = \frac{-5 \pm 1}{2a}$  より,  $a = 6, c = 1$

- $b = 7, \sqrt{D} = 1, ac = 12$  のとき,  $x = \frac{-5 \pm 1}{2a}$  より,  $a = 6, c = 2$

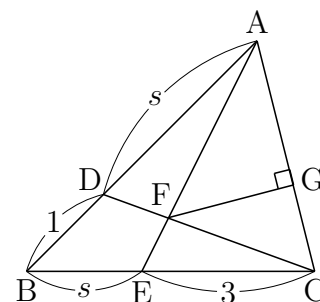
これと (1) の結果により, 求める  $(a, b, c)$  の総数は  $24 - 2 = \mathbf{22}$  (組)

- 4 (1)  $\triangle ABE$ と直線  $CD$  について、メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AD}{DB} \cdot \frac{BC}{CE} \cdot \frac{EF}{FA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{s}{1} \cdot \frac{s+3}{3} \cdot \frac{EF}{FA} = 1$$

したがって  $AF : FE = s(s+3) : 3$

点  $E$  は線分  $BC$  を  $s : 3$  に内分する点であるから



$$\begin{aligned} \vec{AF} &= \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \vec{AE} = \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \cdot \frac{3\vec{AB} + s\vec{AC}}{s+3} \\ &= \frac{s}{s^2+3s+3} (3\vec{AB} + s\vec{AC}) \\ &= \frac{3s}{s^2+3s+3} \vec{AB} + \frac{s^2}{s^2+3s+3} \vec{AC} \end{aligned}$$

よって  $\alpha = \frac{3s}{s^2+3s+3}$ ,  $\beta = \frac{s^2}{s^2+3s+3}$

- (2)  $\triangle AFC : \triangle AEC = AF : AE$ ,  $\triangle AEC : \triangle ABC = EC : BC$  であるから

$$\begin{aligned} \triangle AFC &= \frac{AF}{AE} \triangle AEC = \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \triangle AEC, \\ \triangle AEC &= \frac{EC}{BC} \triangle ABC = \frac{3}{s+3} \triangle ABC \end{aligned}$$

上の2式から  $\triangle AFC = \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \cdot \frac{3}{s+3} \triangle ABC = \frac{3s}{s^2+3s+3} \triangle ABC$

$\triangle AFC = \frac{1}{2} AC \cdot FG$  であるから

$$FG = \frac{2\triangle AFC}{AC} = \frac{6s}{s^2+3s+3} \cdot \frac{\triangle ABC}{AC}$$

$s > 0$  であるから、相加平均・相乗平均の大小関係を用いて

$$\frac{s^2+3s+3}{s} = s + \frac{3}{s} + 3 \geq 2\sqrt{s \cdot \frac{3}{s}} + 3 = 2\sqrt{3} + 3$$

したがって  $FG = \frac{6s}{s^2+3s+3} \cdot \frac{\triangle ABC}{AC} \leq \frac{6}{2\sqrt{3}+3} \cdot \frac{\triangle ABC}{AC}$

$FG$  が最大となる、すなわち、上式において等号が成立するとき

$$s = \frac{3}{s} \quad \text{よって} \quad s = \sqrt{3}$$

$$\boxed{5} \quad (1) \quad z\bar{z} + \alpha z + \beta\bar{z} + \gamma = 0 \quad \dots (*)$$

$$(*) \text{ の両辺の共役な複素数は } z\bar{z} + \bar{\alpha}\bar{z} + \beta z + \bar{\gamma} = 0 \quad \dots (**)$$

$$(*) - (**) \text{ より } (\alpha - \bar{\beta})z - (\bar{\alpha} - \beta)\bar{z} + \gamma - \bar{\gamma} = 0$$

(2)  $\gamma$  は実数であるから,  $\gamma = \bar{\gamma}$  を (1) の結果に代入すると

$$(\alpha - \bar{\beta})z - (\bar{\alpha} - \beta)\bar{z} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (\alpha - \bar{\beta})z = \overline{(\alpha - \bar{\beta})z}$$

したがって,  $(\alpha - \bar{\beta})z$  は実数である. これを  $t$  とおくと

$$(**) \quad (\alpha - \bar{\beta})z = t \quad (t \text{ は実数})$$

(i)  $\alpha - \bar{\beta} = 0$ , すなわち,  $\alpha = \bar{\beta}$  のとき,  $(*)$  から

$$z\bar{z} + \bar{\beta}z + \beta\bar{z} + \gamma = 0 \quad \text{ゆえに} \quad |z + \beta|^2 = |\beta|^2 - \gamma$$

$\gamma < 0$  であるから,  $z$  は点  $-\beta$  を中心と半径  $\sqrt{|\beta|^2 - \gamma}$  の円周上の無数の点である. したがって, これは条件に反する.

(ii)  $\alpha - \bar{\beta} \neq 0$ , すなわち,  $\alpha \neq \bar{\beta}$  のとき,  $(**)$  より  $z = \frac{t}{\alpha - \bar{\beta}}$   $\dots \textcircled{1}$

これを  $(*)$  に代入すると

$$\begin{aligned} \frac{t^2}{|\alpha - \bar{\beta}|^2} + \frac{at}{\alpha - \bar{\beta}} + \frac{\beta t}{\bar{\alpha} - \beta} + \gamma &= 0 \\ t^2 + \alpha(\bar{\alpha} - \beta) + \beta(\alpha - \bar{\beta})t + |\alpha - \bar{\beta}|^2\gamma &= 0 \\ t^2 + (|\alpha|^2 - |\beta|^2)t + |\alpha - \bar{\beta}|^2\gamma &= 0 \end{aligned}$$

$|\alpha| = |\beta| \neq 0$  および  $\gamma < 0$  であるから, 上式を満たす実数  $t$  は

$$t = \pm |\alpha - \bar{\beta}| \sqrt{-\gamma}$$

の 2 個ある. これを  $\textcircled{1}$  に代入して

$$z = \pm \frac{|\alpha - \bar{\beta}| \sqrt{-\gamma}}{\alpha - \bar{\beta}} = \pm \frac{\sqrt{-\gamma}}{|\alpha - \bar{\beta}|} (\bar{\alpha} - \beta)$$

このとき,  $(*)$  を満たす  $z$  はちょうど 2 個ある.

(i), (ii) より, 求める必要十分条件は  $\alpha \neq \bar{\beta}$

解説  $z = x + yi$ ,  $\alpha = a + bi$ ,  $\beta = c + di$  とおいて, これらを (\*) に代入すると

$$\begin{aligned} x^2 + y^2 + (a + bi)(x + yi) + (c + di)(x - yi) + \gamma &= 0 \\ x^2 + y^2 + (a + c)x + (-b + d)y + \frac{\gamma + \bar{\gamma}}{2} \\ &+ \left\{ (b + d)x + (a - c)y + \frac{\gamma - \bar{\gamma}}{2i} \right\} i = 0 \end{aligned}$$

したがって,  $z = x + yi$  は, 次の方程式の解である.

$$\begin{cases} x^2 + y^2 + (a + c)x + (-b + d)y + \frac{\gamma + \bar{\gamma}}{2} = 0 \\ (b + d)x + (a - c)y + \frac{\gamma - \bar{\gamma}}{2i} = 0 \end{cases}$$

とくに  $\gamma$  が負の実数であるとき, 上の第1式は原点を内部にもつ円を表す.

$$\left( x + \frac{a + c}{2} \right)^2 + \left( y + \frac{-b + d}{2} \right)^2 = \left( \frac{a + c}{2} \right)^2 + \left( \frac{-b + d}{2} \right)^2 - \gamma$$

第2式は原点を通る直線を表す. したがって,  $z$  はこの円と直線の共有点であるから, (\*) を満たす  $z$  がちょうど2個ある.

ただし,  $b + d = a - c = 0$  のとき, 第2式は複素数平面上のすべての点であるから,  $z$  は第1式の円を表し, 無数の  $z$  が存在する.

$$a = \frac{\alpha + \bar{\alpha}}{2}, \quad b = \frac{\alpha - \bar{\alpha}}{2i}, \quad c = \frac{\beta + \bar{\beta}}{2}, \quad d = \frac{\beta - \bar{\beta}}{2i}$$

であるから, このとき

$$\frac{\alpha - \bar{\alpha}}{2i} + \frac{\beta - \bar{\beta}}{2i} = 0, \quad \frac{\alpha + \bar{\alpha}}{2} - \frac{\beta + \bar{\beta}}{2} = 0$$

ゆえに  $\alpha - \bar{\beta} - \overline{\alpha - \bar{\beta}} = 0$ ,  $\alpha - \bar{\beta} + \overline{\alpha - \bar{\beta}} = 0$  すなわち  $\alpha = \bar{\beta}$

よって, 求める必要十分条件は  $\alpha \neq \bar{\beta}$



$$\boxed{6} \quad (1) \quad (e^{ax} \sin bx)' = e^{ax}(a \sin bx + b \cos bx)$$

$$(e^{ax} \cos bx)' = e^{ax}(-b \sin bx + a \cos bx)$$

上の2式から,  $\{e^{ax}(b \sin bx + a \cos bx)\}' = (a^2 + b^2)e^{ax} \cos bx$  より

$$\begin{aligned} I(a, b) &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{ax} \cos bx \, dx \\ &= \frac{1}{a^2 + b^2} \left[ e^{ax}(b \sin bx + a \cos bx) \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{b}{a^2 + b^2} e^{\frac{a\pi}{2}} \sin \frac{b\pi}{2} + \frac{a}{a^2 + b^2} \left( e^{\frac{a\pi}{2}} \cos \frac{b\pi}{2} - 1 \right) \end{aligned}$$

$$(2) \quad \sin bx \sin cx = \frac{1}{2} \{ \cos(b-c)x - \cos(b+c)x \} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} J(a, b, c) &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{ax} \sin bx \sin cx \, dx \\ &= \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{ax} \{ \cos(b-c)x - \cos(b+c)x \} \, dx \\ &= \frac{1}{2} \{ I(a, b-c) - I(a, b+c) \} \end{aligned}$$

$$(3) \quad 2 \cos \alpha \sin \beta = \sin(\alpha + \beta) - \sin(\alpha - \beta) \text{ であるから}$$

$$2 \cos 4tx \sin tx = \sin 5tx - \sin 3tx$$

$$2 \cos 3tx \sin 2tx = \sin 5tx - \sin tx$$

上の2式の辺辺をそれぞれ掛けさらに2倍すると

$$\begin{aligned} &8 \sin tx \sin 2tx \cos 3tx \cos 4tx \\ &= 2(\sin 5tx - \sin 3tx)(\sin 5tx - \sin tx) \\ &= 2 \sin^2 5tx - 2 \sin 5tx \sin tx \\ &\quad - 2 \sin 5tx \sin 3tx + 2 \sin 3tx \sin tx \\ &= 1 - \cos 10tx - (\cos 4tx - \cos 6tx) \\ &\quad - (\cos 2tx - \cos 8tx) + (\cos 2tx - \cos 4tx) \\ &= 1 - 2 \cos 4tx + \cos 6tx + \cos 8tx - \cos 10tx \end{aligned}$$

したがって

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{2}} 8e^x \sin tx \sin 2tx \cos 3tx \cos 4tx dx \\ = \left[ e^x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - 2I(1, 4t) + I(1, 6t) + I(1, 8t) - I(1, 10t) \end{aligned}$$

(1)の結果より,  $\lim_{b \rightarrow \infty} I(1, b) = 0$  に注意すると

$$\lim_{t \rightarrow \infty} \int_0^{\frac{\pi}{2}} 8e^x \sin tx \sin 2tx \cos 3tx \cos 4tx dx = \left[ e^t \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = e^{\frac{\pi}{2}} - 1$$